



のびのび いきいき 生涯学習

今回は、宇都宮大学教育学部助教授 廣瀬隆人先生の
生涯学習に関する講話を紹介します。

『社会の変化に対応した学習の在り方』

【急速な社会の変化】

IT(情報技術)革命をはじめとする科学技術の急速な進展によって、私たちの暮らし方や地域社会の在り方は大きく変化しつつあります。

高齢化、国際化、地球環境問題といったグローバルな課題は、「ネットワーク」というツールによって答申や書物の世界から、すでに私たちの日々の暮らしに直接大きな影響を与えています。同時に、ボランティア、NPOが社会を構成する主要なセクターとして成長しつつあり、「公」の位相さえも変貌し、これまでに変化しにくいと考えられてきた制度やしくみ、価値さえも瞬く間に変わっていきます。

【学習活動と現代的課題】
さて、生涯学習は各人がその自発的な意思に基づく学習が前提とされるが、社会教育は、そうした個人が自由に選択して行う学習活動に対する教育的配慮や、学習活動を教育的に高めていく作用であると考えることができる例えば、公共性、社会性、自立性などを高めていくことです。

急激な社会の変化には、一人ひとりの学習活動の継続によって対応していくことは自明のことであるが、それだけでは、変化には対応できない

のです。すぐに役に立つ知識・技術は、すぐに役に立たなくなる可能性が強いからです。学び方を学ぶのです。したがって、知識や技術も含めて一人ひとりが現実の社会に生きていくための力と豊かな人間性を引き出ししていく(エンパワーメントする)社会教育の責任は重大です。

平成四年の生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」において示された*「現代的課題」の学習には、「豊かな人間性」を基本とすることが指摘されています。そこでは、心豊かな人間の形成を基本とすることによって、現代的課題の学習が社会の変化に対応するだけでなく、むしろ、現代的な課題を自らの課題として解決し、変化の主体となり、変化を創造していくことが期待されています。

趣味・教養の学習活動においてもこうした現代的な課題に関する学習の要素を取り入れながら学習活動を進めることが求められています。

【社会の変化に対応するために】

五十年の歴史を持つ公民館の設置理念を「公民館図説」(小和田武紀編著昭和二十九年)から見ると公民館が地域づくりを進める教育機関であること

がわかります。

公民館の理念は、変化に対応することだけでなく、さらに地域社会を形成していく主体となるための学びのしくみであるといえます。

山梨県内の地域づくりに公民館が果たしている役割は大きい。しかし、公民館自身も社会の変化に対応し、命、緑、暮らしを守り住み良い地域をつくっていくためには、暮らしには、「学び」地域社会には「公民館」が必需品なのかもしれない。

*現代的課題

この答申は学習者個人から家庭、地域社会、国、国際社会、地球までにわたる視野から現代的な課題を指摘し、これまでこうしたことを学ぶ学習機会がないことを問題にしています。具体的な課題を六つに分けて紹介します。

- ・ 生命、健康、人権、豊かな人間性
- ・ 家庭、家族、高齢化社会、男女共同参画型社会
- ・ 地域の連携、まちづくり、交通問題、消費者問題
- ・ 科学技術、情報の活用、知的所有権
- ・ 国際理解、国際貢献、開発援助
- ・ 人口、食糧、環境、資源、エネルギー

城下町奉行だより

どろぼう捜査にご協力を

昨年(「どろぼう」の発生件数)は、山梨県内約一、五〇〇件、都留警察署管内約四三〇件で、犯罪全体の80%以上を占めており、市民の皆さんにとって最も身近な犯罪となっております。

最近のどろぼうは、広域化・スピード化・凶悪化しており、特に住宅やアパートなどへの侵入窃盗については、居直り強盗や強姦事件、放火事件といった凶悪事件に発展することが多くなっています。

警察では、このような悪質な侵入窃盗犯人を捕まえるために、日夜捜査を行っております。しかしながら、近年の厳しい治安情勢の下では、市民の皆さんの協力なくしては、どろぼうはなかなか捕まりません。

そこで、市民の皆さんには、日頃から、左記のことを習慣づけ、どんな小さな事でも最寄りの警察署、交番、駐在所に連絡してください。また犯人がいる、犯人が逃走するのを見たなど、緊急の場合は、110番してください。

☆留守にする時は、しっかり戸締まりをし隣近所に声掛けを
☆被害にあったら、現場はそのままに
☆不審な人、車などの情報は、必ずメモを